

世界第一の宗教が減びて、初めて宗教とは何かを知る

Greatchain

2019/8/09

8月6日の@NeonNettleに、「スペインは、もはやカトリック国ではなくなり、〈非信仰者〉が今、大多数を占めている」という記事があった。最初に冒頭の象徴的な写真を借用し、次に冒頭の文章を引用して、本文に入れることにしよう。



以下、引用：——

カトリック教会は、1世紀に、スペインに設立されて以来、この国では不動の最大の宗教として揺るがず、今日までほとんどのスペイン人は、実践的カトリック教徒として自認してきた。

そして、今でもカトリック教は、スペインでは公的には最大の宗教かもしれないが、歴史上初めて、現在、この国では、カトリック教を実践する人々より、非信仰者、無神論者、不可知論者の方が多数派になっている——と、スペイン社会学研究センター（CIS）の新しい報告は知らせている。

スペインに住む人々の33パーセントが、カトリック教徒だと報告しているが、そのうち22.7パーセントだけが、定期的にミサに出席し、告解を受けている。

カタルーニアでは、その数はさらに減少し、信仰者の 10.9 パーセントだけが定期的にミサに出席し、告解を実践している。・・・

要するに、ローマ・カトリックという世界最大の宗教が、その古来最大の中心地で、信者から愛想をつかされているという報告である。おそらく、これはずっと前から進んでいた現象だが、いま急激に、暴力革命のように進行しているということであろう。これはバチカンの内情を少しでも知っている人々には、当然のことに思えるだろう。これは起こるべくして起こった。

では、世界の他の宗教はどうなっているのだろうか？ 世界の宗教を代表するカトリック教団で、こういうことが起こっているのであれば、他の組織宗教集団でも、これほど極端ではないにしても、ほぼ同様のことが起こっているのではないだろうか？ これは大規模な地殻変動ではないだろうか？ ごく最近、世界でいま最も迫害を受けているのは、キリスト教徒だという報告があった。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/190505.pdf> では、彼らを憎むイスラム教など他の宗教が、その分、愛されるかということ、そんなことはあり得ない。今起こっているのは、世界の旧来の宗教が、相互間でも、また内部告発的にも、ヘイト・スピーチをぶつけ合っているというのが実情であろう。これはどう考えても、カトリック教のようなタイプの宗教が、滅びるべき時期に来ているということである。誰も、これを元の状態に復興せよという人はないだろう。これは、宗教とは何かを、初めから考え直せということであろう。組織化された宗教が、暗黙のうちに、サタンにつながるものであることを、人々は初めて見せつけられている。

私のよく引用する、ドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』の中の「大審問官」という劇中劇に、復活したイエスを捉えて詰問する大審問官の、ドキリとするセリフが出てくる（場所は中世のスペインの街、イエスは終始無言）：——

わしはお前に、我々の秘密を隠そうとはしない。もっともお前は、どうしてもわしの口から言わせたいのかもしれぬ。よいわ、聞かせてやろう——**我々の仲間はお前ではなく、「彼」(サタン) なのだ …**

この通りのことが、現在、我々の目の前で起こっている。法王フランシスは、「隠そうともせず」この通りの発言をしている。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/171215.pdf> 今から思えば、これはドキリとするほどの事件でもなかった！

では世界の若者たちは、これに対してどうするのか？ 彼らは再び、かつての無神論や共産主義に戻って、解決しようとするだろうか？ そういう愚かなことが起こるとは、私は思わ

ない。人間は本心において、それほどの馬鹿ではない。馬鹿のように見えるのは、若者たちを操縦して、彼らが自らの信念で、そのような時代錯誤の闘争をやっているかのように、見せかける陰謀団（つまり「大審問官」）がいるからである。

では、宗教とは本来、何なのか？ 私は、この大胆な問いに答えることができるとは思わないが、少なくとも否定形で答えることはできる。それは、そこにつながっておれば、生涯、あるいは子々孫々、安泰でいられる、ありがたい魔法の集団のことではない。神とは、助けただけのものでなく、我々が助けるべき、能動的に協力すべきものである。暗殺されたケネディが、「祖国から何をしてもらおうかでなく、祖国のために何ができるかを考えよ」と言った、その祖国のことである。

私は、デイヴィッド・ウィルコックの『ザ・シンクロシティ』に、次のような彼の個人的エピソードを読んで、この本を翻訳する決心をした：——ウィルコックが神に呼びかける箇所は、知る限り、他にはないことも面白い。彼の青少年時代は、不思議なほど、友人からひどく迫害される存在だった。彼が大学生になり知恵を得始めたころ、集まった昔の友人たちに、その変貌ぶりを徹底的に叩かれ嘲笑された。落胆して帰る道すがら、彼は天に向かって言う、「神よ、私はこれまで、あなたに助けられて生きてきました。しかし、これからは、あなたを助けるために生涯を送ることを誓います。」そう言ったとたんに、今までに見たこともない、大きな明るい流れ星が、目の前を通り過ぎて行った。

彼は現在、コーリー・グッドなどと共に、社会メディアで最も信頼され、敬愛される人物になっている。同時に、常に命を狙われながら、不思議に生き延びている。これは、我々の生きている世界のベースがサタンに握られており、命を失うことを恐れて、人々に真実を語り、世界を神に近づけるといふ英雄的行動は、不可能であることを意味するだろう。